

「ハナマメの花」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

北軽井沢は、キャベツ、レタス、トウモロコシなどの産地だが、特産品の一つに「ハナマメ」がある。正式な和名は「ベニハナインゲン」というが、夏に赤い美しい花をつけるので、この名で呼ばれている。初夏から夏にかけて、北軽井沢を散策していると、この赤い花があちこちで目につく。



ハナマメ (ベニハナインゲン) は、このように作付されている。最初は金属の枠だけだが、ハナマメが育ってくると、ツルと葉で、まるで植物のトンネルのようになる。



近づいてよく見ると、金属枠にネットが張ってある。そのネットに、ハナマメのツルがからみついて繁茂し、

最終的にはトンネル状になるのだ。

ハナマメは、もちろんマメ科の植物である。マメ科の植物は、「蝶型花」という独特の形状の花をつける。小さなチョウが舞っているような形から、そのように呼ばれている。



こうして見ると、確かにマメ科植物の特徴そのものだ。もし、花弁が青紫だったら、クズの花にそっくりである。下から順に咲いて、結実してゆく様子もわかる。残った雌しべが、どのようにあの大きな豆鞘に成長するのか、とても興味深いと思った。